

# 京都市基本計画策定推進本部第2回本部会議 本部長指示

平成21年9月15日（火）

消防庁舎7階作戦室

皆さん本当に御苦労様です。

7月10日の第1回本部会議で、私は、市民の皆様と、夢、希望、責任、そして行動を共有し、未来の京都づくりに邁進するための礎となる、新たな基本計画の策定に向け、全庁挙げて本格的な取組を開始するキックオフ宣言を行いました。

この間、幹事会をはじめ、全局でのワーキングや局を横断したワーキングにおいて、暑い夏ではありましたが、更に熱くなるような議論を積み重ねていただきました。

お陰で、本日、基本計画の策定方針を決定するとともに、新たな基本計画について京都を挙げて議論していただく「基本計画審議会」と、若者の皆様にも基本計画策定に積極的に参画いただく「未来の担い手・若者会議U35」の陣容を確定するに至りました。

この間の皆さんの御尽力に心から敬意を表したいと思います。今、西村局長、柴山室長から説明いただきましたように、創意工夫を凝らした素晴らしいものができたと考えております。

さて、ここで基本に立ち返りまして、いくつかお話したいと思います。まず、京都のこれからの10年を展望するに当たって、これまでの10年を見てみますと、地球温暖化をはじめとした環境の破壊、予想もしなかった厳しい、100年に1度と言われる世界同時不況、経済格差の拡大などグローバルな社会経済情勢の問題が数多く生起し、これらが京都市民の日常生活に大きな影響を及ぼしています。

同時に、国内においても、高齢化・少子化・単身化といった家族形態の変化、ライフスタイルの変化や価値観の変化等を背景とした地域社会の変貌、京都は地域力がしっかりしていると言われてきましたが、その中にも弱体化が進んできている、このような問題があります。更に国、地方の厳しい財政状況、更に市町村合併や行財政改革の進展による自治体の在り方等々、様々な変化が進み、今まさに国の在り方そのものが厳しく問われてきております。

私は、こうした変化は、今後一層、加速度を増すと同時に、様々な形で現れてくると考えています。そうした中で、個々の変化に対して、スピード感を持って対応しつつ、更に、そうした変化に主体的に対応し、在るべき社会の姿を希求していく、社会を変革していく力を強めていかなければならないと思います。

「チェンジ」をキーワードにしたオバマ大統領の就任や先の衆議院議員総選挙の結果をひくまでもなく、世界、日本、そして京都市民は、様々な迫り来る変化に対峙し、社会経済体制やライフスタイルなど様々な分野でのパラダイムシフト、既成概念の転換を求めている、そのように認識しなければならないと思います。

これに対して、今、京都の進むべき道筋、京都の選択、それは、私がマニフェストで示しましたように、誇るべき自治の伝統を有する京都が、まず率先して「地域主権時代のモデル都市」となることでもあります。

地域主権は、どのような政権になろうとも大きな時代の流れであり、必然であります。必然にしなければなりません。しかし、国任せでは無く、その主人公たるべき、住民と自治体が自治意識と責任を共有し、実践する中でこそ実現するものであります。

誇り高き自治の伝統を有する京都が地域主権の時代をリードする新しい自治の形を発信し、「新たな責任の時代」を牽引する、その羅針盤となるのが次の基本計画であります。

策定方針で示したとおり、新たな基本計画は、単なる行政の計画の域を超え、市民、NPO、企業、大学など様々な主体と行政とが役割分担と協働でまちづくりを進める指針となる「共汗型計画」として策定するものであります。

そのためには、策定過程において、形式的な市民参加や議論であってはなりません。

御承知のとおり、本市はまた、現在危機的な財政状況にあります。昨年度一般会計決算で30億円の赤字となり、今年度の収支見通しでは、様々な努力を重ねても、なお60億円の財源不足が見込まれます。こうした一層深刻さを増す財政状況をはじめ、これから予想される人口減少や、更に進む高齢化といった本市を取り巻く課題は山積しております。こうしたことを、積極的に市民の皆様にとことろと説明し、使命感と危機感をしっかりと共有したうえで、新しい京都の未来を切り拓く徹底した議論を審議会委員の皆様とともに進めていただくことをお願いします。

また、今回京都ならではの力強い「基本計画審議会」が発足することになりました。70名の多士済々の方々に参画していただくことができました。この規模は、他都市に比べましてかなり大きなものであります。しかし、人選に当たっては、全庁的に練りに練っていただいたうえで、素晴らしい候補者の中から、なお絞り込まなければならない。大変御苦勞を掛けました。私も苦慮致しました。

京都は大学のまちであり、芸術のまち、文化のまち、また教育のまち、福祉のまち、経済界にも素晴らしい方がおられます、地域社会にも素晴らしい方がおられます。人材の宝庫です。そうした多くの俊英な学識者、実践者がおられる中で、多方面にわたって御活躍されている方々、本当に挙げれば枚挙に暇がないのですが、その中で絞り込ませていただきました。

人選に当たっては、市民の皆様と市役所が共に心と力を合わせて京都の未来を築いていく共汗型計画を策定するのに相応しく、各分野の専門家の方々とともに、経済界や福祉、教育、まちづくりなど、実際に現場で汗をかいていただいている方々に出来る限り参画していただくこととし、素晴らしい顔触れとなりました。

国の審議会でも、これほどの顔触れは揃わないと私は思います。このメンバーによりまして、平成の京都策ともいふべき、画期的な計画案を作成していただけるものと確信致しております。

更に、「未来の担い手・若者会議U35」についても、各分野で活躍中の活きのいい、間違いなく未来の京都の、また未来の日本の担い手となられる若者の皆様を選びすぐってメンバー構成ができました。

若者ならではの大胆かつしなやかな発想で、基本計画づくりをサポートしていただくことを大いに期待しております。

時代の大きな転換期においては、また、厳しい財政状況のもとにおいては、ともすれば縮み志向となり変化の傍観者となりがちであります。あるいは、人々の心に閉塞感が蔓延し、負の思考による選択がなされる危険すらあります。今、我々に求められていることは、健全な精神と徹底したプラス思考であります。ピンチをチャンスに変えるための行動であり、勇気であります。

これからの1年間の取組が未来の京都を大きく左右する、このことをしっかりと肝に据えていきたいと思っております。

また、各区役所におきまして、現在区民の方々と円卓会議を開催していただくなど、区民参加のもとに、各区の基本計画策定の取組を区長、担当区長に先頭に立って進めていただいております。非常に心強いですし、地域主権時代、私は区の基本計画を区民ぐるみで作ることが極めて大切だと考えております。どうぞよろしくお願ひします。

これらのことをしっかりと、共々に肝に据えまして、全庁一丸となり、全身全霊を懸けて共汗と融合をキーワードに策定作業を進めて参りたいと思っております。どうぞ、よろしくお願ひします。ありがとうございます。